

山頭火没後80年記念シンポジウム

参加者からの投句

石竹和歌子

亡き母と秋風も一緒にシンポジウム
シンポジウム終って今夜の酒は山頭火

石丸雅江

ふるさとの山頭火碑に夕しぐれ

大平山雄

休日に酒を飲む暗くなったよ
転勤の度にあたたかいありがたい

大脇雅志

木犀の香胸に満たして一人
老いた母の話いつも同じ、笑顔

萩島架人

陽が笑う花が笑う一角
雑草は見えていないけど育つ

木城香代

みあげても登ってもふるさとの風
シヤボン玉虹を宿してふるさとの空

栗田良則

おだやかさつつまれ防府山頭火
温くもりよ防府の里や秋高し

健一

遅刻おそれてやっと天満さんへセーフ
其中庵からのぞくか窪田さんもおってか
其中庵故郷近く湯の町もあるぞ
友の友は友大ファンの父の子は今は孫か

佐川智英実

階段あがれば花手水は夢のつづき
ほそくあけた窓を冬のほそい風

佐古俊雄

秋晴れに集いて漂泊の足跡を学ぶ

ちよ

新酒トクトク夜汽車が過ぎる

津徳昭男

秋風あおげば青葉の天満宮

さわやかな青空天満宮と山頭火をつつんでいる

哲海

親より受けたこの身体打たれて忍んで猿の声

今日の糧は無く両手に水を受けて慈母の涙と一緒に飲み干す

今日の糧は無く水を飲んで睡る

打たれて忍び愚直に学んで猿の声

ふるさとは山頭火の俳句と酒をじんわり

とさやん

山に照らされてキラキラ今日の始まり

コロナをよそに秋風にそよぐ

中村好徳

身動きできない意地を宥める

秒針が戸惑い時間が狂う

山崎哲次

天へ白く放哉煙・山頭火雲

共に庵往生南郷庵放哉・一草庵山頭火

匿名

水しぶきそよ吹く風も遊んでる

水煙そよ吹く風もけむたそう

遠近も感じさせない雪の壁

遠近も無視する雪壁のパノラマ

淡路も四国も本州も遠くにかすむ四方の海

あれは淡路か四国の山か視界さえぎる加太の瀬戸

ひよいと来た大海原の水平線どこつなぐ

青い青い水平線どこつなぐ